

不登校、発達障害児などを対象としたプログラム

# リフレッシュキャンプ

1. 趣 旨

自然体験や様々な人との交流を通し、主体的に判断し行動できる力や協調性・思いやりの心など、「生きる力」を育む。

2. 期 日

平成26年9月18日（木）～20日（土） 2泊3日

3. 主 催

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

4. 参加対象

（心に悩みを抱える）小学3年生以上～高校生までの児童生徒及びその指導者、30名程度

5. 参加実績

31名（小学生1名、中学生20名、高校生2名、引率者8名）

6. プログラム内容



9/18 (木)	9:00				15:00				16:00		17:00		18:00		19:00		20:30		21:30	
	バス移動(札幌→苫小牧→ネイパル森) ※有珠山SAで、自己紹介タイム				到着 開会	宿舎 移動 休憩	仲間づくり ゲーム	事業 オリ	休憩	夕食	館内 ウォークラリー		入浴 ・ 休憩							
9/19 (金)	7:00		8:30		14:00				15:00		19:00				20:30		21:30			
	起床	つどい	朝食		駒ヶ岳登山 (六合目～馬の背)				休憩		野外炊事 (カレーライスづくり)				キャンプ ファイヤー		入浴 ・ 休憩			
9/20 (土)	6:30		7:00		8:30		10:30		11:20											
	起床	つどい	朝食		宿舎 点検	選択プログラム ①パークゴルフ ②クラフト制作 ③休憩		ふり 返り	閉 会	バス移動(ネイパル森→苫小牧→札幌)										

7. 活動の様子

1日目。「仲間づくりゲーム」では、活動班ごとに集合し、自己紹介等をしながら顔合わせを行い、名前や所属先の他に好きなアニメなどを披露しあった。また、全員の名前と顔を覚えようと「ごちゃまぜビンゴ」に取り組み、ゲームを通して笑顔で会話を楽しむなど、徐々に緊張感がほぐれ、和やかな雰囲気の中で楽しく過ごすことができた。

夜は「館内ウォークラリー」に挑戦。初めてのグループ活動に取り組んだ。チェックポイントを見つけ、キーワードを探り当てることを通してグループ内の話し合いが活発になり、交流を深めることができた。

2日目は、駒ヶ岳登山を実施。水分補給や隊列の維持など、参加者全員の安全を大事にし、心を1つにしてゴールの馬の背を目指した。グループでスピード調整をしたり、時には仲間を励ましたりするなど、声のかけ合いを大事にし、全員が無事に馬の背に到達することができた。馬の背から望む大沼や函館山、噴火湾の絶景に感動の声を上げ、また、全員で恋するフォーチュンクッキーを踊るなど、目標を達成できたことを心から喜んでいる姿が見られた。

野外炊事は突然の大雨に見舞われ、活動場所が制限されてしまったが、グループ内外のコミュニケーションも活発になり、全体の動きを見通し、互いに譲り合いながら、参加者が主体となって活動を進めることができた。

夜のキャンプファイヤーでは、レクリエーションを楽しみ、満点の星空を見上げながら、登山や野外炊事成功の余韻にひたっていた。



最終日は、パークゴルフやクラフト制作、トランプゲームなど思い思いに過ごし、ネイパル最終日を楽しんだ。

ふり返りでは、1人1人が印象に残った体験活動についてスピーチをした。自分の思いを伝えること、仲間のスピーチを素直に聞くことで、共に過ごした3日間を想起し、仲間への共感から、スピーチごとに拍手がわき起こり、笑顔で締めくくることができた。



## 8. 参加者の声

(1) 心に残ったプログラム内容とその理由を教えてください。

### ①駒ヶ岳登山

- ・みんなに手伝ってもらい、声をかけてもらったおかげで馬の背までたどり着くことができた。みなさん、ありがとうございます。
- ・初めての登山だったけど、意外に楽しかったです。登りきった達成感がすごく気持ちがよかったですので、また登山をしてみたい。

### ②野外炊事

- ・同じグループ、違うグループで協力できてと思う。
- ・みんなで作ったカレーはおいしくて、仲間を大切にすることの大切さを学びました。

(2) 仲間とのコミュニケーションで、心に残った場面を教えてください。

- ・自分ができないこと、相手ができないことを協力してできた。
- ・自分が疲れて動けなくなった時、心配してくれたこと。



## 9. 事業の分析と考察

今回の事業の実施に当たり、5月と7月にフリースクールの担当の先生方と話し合いをもった。その中で、先生方の役割と、プログラム内容について意見を交わした。事業期間中、先生方には児童生徒の突発的な反応への対処をお願いし、また、児童生徒間のコミュニケーションを多くしたいという願いを受け、登山をはじめ、グループ活動をともなう活動を中心に3日間のプログラムを構成した。

また、プログラムの時間について、1人1人が目的を達成できるように時間配分を多めに、また休憩時間を小まめに配置するなど、ゆとりをもって行動できるようにした。

児童生徒就寝後、ネイパル森の運営スタッフとボランティア、引率の先生方が集まり、児童生徒の様子や翌日の動き・留意点について話し合う時間を設けた。

これらの結果、すべてのプログラムに全員が参加することができた。また見通しをもって行動できたことにより、参加者の自発的なコミュニケーションや行動が徐々に見られ、主体的に活動をする姿を増やすことができた。また、自分たちでやり遂げた達成感を大きくすることができた。

## 10. 成果と課題

### ○ 成果

- ・引率の先生方が児童生徒の対処に専念したことにより、不安を見せている児童生徒への励ましやトラブル予防指導などについて、早期発見・早期解決を図ることができた。これにより、すべての児童生徒がすべてのプログラムに参加することができた。
- ・ゆとりのある時間配分でプログラムを構成したことにより、全員が気力・体力ともに余裕をもって取り組むことができた。全員参加でできたことが、グループ活動やコミュニケーションの活性化につながった。

### ▼ 課題

- ・主に中学生の参加が多い事業であるが、高校生の参加希望も耳にしている。高校生への広報やフリースクール高等部への連絡の仕方等を見直し、できる限り参加希望に応えられるようする。
- ・職員、ボランティア、引率の先生方との連携を密にしたことはスムーズな事業運営につなげることができたが、焦点を1人1人の活動や成長の様子にも当てていく。これにより、適切な時、適切な場での児童生徒への声かけが増え、満足感や達成感をより大きくし、地元へ帰ってからの変容につながっていくのではないかと考える。

